

受賞報告

平成23年度(第10回) **日本農学進歩賞**：
生物生態機能研究領域 星野(高田)裕子



星野(高田)主任研究員は、「土壌からのDNA/RNA直接抽出による土壌微生物群集の解析」により受賞しました。

この研究は、これまで困難だった火山灰土からのDNAおよびRNA抽出を可能にするなど、培養困難な微生物を含む土壌中の微生物群集構造を解析する手法を確立したも

のです。この手法より土壌消毒が微生物群集構造に及ぼす影響について明らかにし、この手法が土壌微生物群集の評価と診断に応用できることを示しました。これらの成果は土壌微生物相解析の標準法に採用され、農耕地土壌の解析に広く利用されています。



平成23年度(第4回) **農環研若手研究者奨励賞**：
有機化学物質研究領域 片岡 良太



片岡農環研特別研究員は「土壌糸状菌を用いた残留性有機汚染物質(POPs)の分解に関する研究」により、受賞しました。

農環研若手研究者奨励賞は、研究所内の若手研究者の活性化を図るため、(独)農業環境技術研究所に勤務する40歳以下の研究職職員および農環研

特別研究員の中から、とくに優れた業績をあげた者を表彰する制度で、平成19年度に開始されたものです。

なお、今年度の研究職職員の該当者はありませんでした。

(広報情報室 広報グループ)

レギュラトリーサイエンスについて考える —第11回有機化学物質研究会—

(独)農業環境技術研究所では、毎年、農業や残留性有機汚染物質(POPs)など農業環境中の有機化学物質に関する様々な問題を議論するため、有機化学物質研究会を開催しています。今年、10月4日、「化学物質と人間・環境との調和を目指すレギュラトリーサイエンス」をテーマに研究会を開催しました。

レギュラトリーサイエンスは「発展する科学技術の信頼性と波及効果を予測・評価し、社会・人間・環境にとって望ましい内容と方向を持つように調整(レギュレート)するための科学」として提唱された概念で、行政施策の支援・合理化や社会生活のルール作りに役立つ研究分野として、その充実・強化が望まれています。

研究会では、7名の演者から「レギュラトリーサイエンス」についての役割や展望、農林水産および環境行政からの要望と期待、国立環境研究所・産業技術総合研究所・農環研など研究機関での実践

事例について講演いただきました。今回の研究会には、試験研究機関、大学、行政、企業、関連団体、一般市民等多方面から138名の参加があり、講演に熱心に耳を傾けるとともに、総合討論では、研究成果の発信先は行政か国民か? 合意形成のために研究者が果たす役割は? など活発な意見交換が行われました。様々な立場から「レギュラトリーサイエンス」の意義やあり方を考える良い機会であったと考えています。

(有機化学物質研究領域 大谷 卓)

